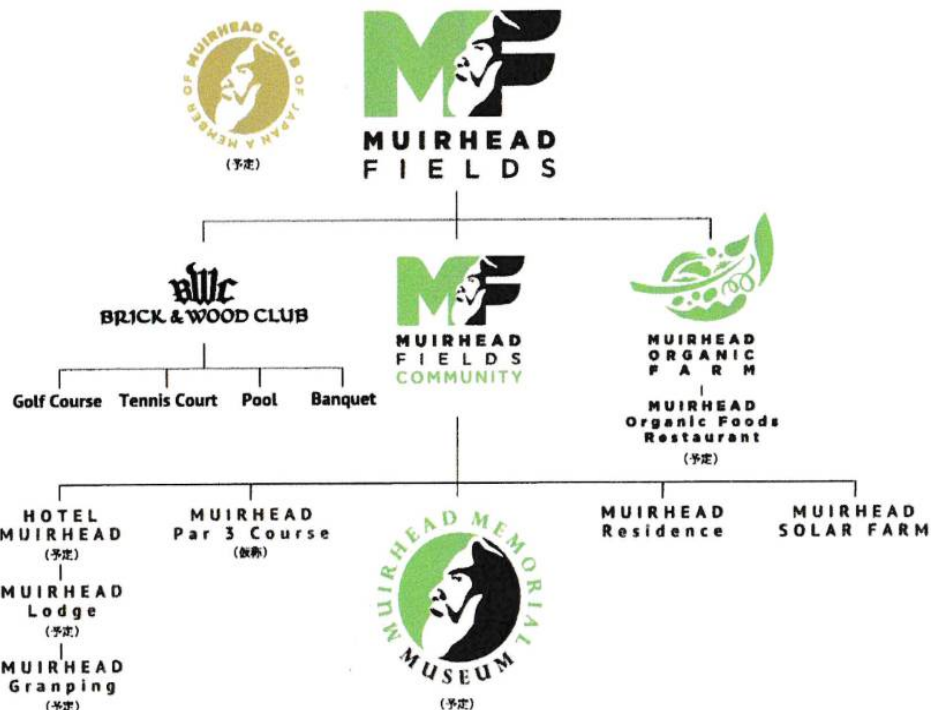


ミュアヘッド・フィールズはゴルファーにとって終の棲家

I、ミュアヘッド・フィールズ

ブリック&ウッドクラブを知る事は、先ずミュアヘッド・フィールズの理解無しに進まない。それは下記相関図を俯瞰する事であり、この全体図を想定しておく事はとても大切な作業となる。ところで下記図は、ファウンダーで有る坂征郎（さか いくお）氏の名刺裏面に記載されているもので、それをコピーさせて頂いた。



この図を見て解る通りミュアヘッド・フィールズは、デズモンド ミュアヘッド氏設計によるゴルフ場（ブリック&ウッドクラブ）と住居（コミュニティ）、更に農場（オーガニック ファーム）と言うこの大きな3本柱が、重要な構成要素となっている。ミュアヘッド・フィールズは別名ゲーティド コミュニティと言われているが、日本語表記では分かり易く閉鎖型コミュニティとも表現されている。

このミュアヘッド・フィールズで貫かれている理念は、**1. 新しい生き方の追求** **2. 地産地消** **3. エコフレンドリー** **4. 直接民主主義**の4点である。この理念を基にこれまで日本では皆無とも言える、新しいコミュニティづくりが行われている。新たな地域創生である。

坂氏によれば日本のバブル経済が崩壊した1994年頃より、ミュアヘッド・フィールズは先ずゴルフ場建設から開始された。

Ⅱ、ゴルフ場__ブリック&ウッドクラブ



ブリック&ウッドクラブは株式会社高滝リンクス倶楽部が経営しており、その経営陣は会員によって構成されている。会員による会員の為の経営・運営を目指しているクラブである。

会員種別には正会員と家族会員付き正会員、更に終身会員の3種類がある。正会員は個人であれば1名、法人会員であれば記名式一名が利用出来る。家族会員付き正会員は、個人の場合2等親以内の親族1名を副会員の意味合いで付ける事が出来、法人名義とする場合は2名記名となる。

終身会員とはその名の通り名義人一代に限定されたものであり、正会員もあり家族会員付き正会員も存在する。

これらの会員が年会費とミニマムユース(最低消費額負担制度)でクラブへ貢献している訳だが、その具体的な内容は下記の様になっている。クラブでは会員の年会費とミニマムユースシステムで、経営が成り立つ事を究極的な理想としている。

<年会費>__消費税込み・2018年5月現在

正会員		家族会員付き正会員	
Sコース	360,000円	Sコース	540,000円
Aコース	149,000円	Aコース	198,000円
Bコース	75,000円	Bコース	99,000円
Cコース	49,000円	Cコース	65,000円

終身会員の年会費はあえて記載しないが、上記一覧表と同様になっている。

年会費とプレーフィーは、反比例するシステムとなっている。金額のみを見た場合、通常のおクラブより高額になっている様に思われるが、使用頻度の高い会員にとってはある意味リーズナブルになっている。

因みに年会費を10万円以上徴収しているその他のクラブは、主に首都圏近郊に点在しており、いわゆる名門と言われているその数14クラブ。

<ミニマムユース>__消費税込み・2018年5月現在

正会員及び終身正会員			
コース	年間最低消費額負担目標	会員プレー料金（平日）	会員プレー料金（休日）
Sコース	800,000円	600円（利用税のみ）	600円（利用税のみ）
Aコース	500,000円	6,250円	6,250円
Bコース	228,000円	9,250円	9,250円
Cコース	100,000円	9,250円	13,200円

家族会員付き正会員及び家族会員付き終身正会員			
コース	年間最低消費額負担目標	会員プレー料金（平日）	会員プレー料金（休日）
Sコース	1,000,000円	600円（利用税のみ）	600円（利用税のみ）
Aコース	665,000円	6,250円	6,250円
Bコース	304,000円	9,250円	9,250円
Cコース	133,000円	9,250円	13,200円

ミニマムユース（低消費額負担制度）とは聞きなれない言葉だが、これは会員がSコースからCコースまでの中から、自らのゴルフライフに合ったコースを選び、その目標金額をクリアして行く事でクラブへ貢献して行く制度であり、クラブ経営の基礎になっている。ちなみにSコースを除く上記金額には2018年5月現在、利用税600円と1,080円の食事代が含まれている。

例えばAコース（50万円）を選択した普通会員は、プレー料金である6,250円以外の消費をせず、またビジターを同伴する事無く目標金額をクリアしようとした場合、年間80回のラウンドを求められる。しかしながらプレー代金10,000円のビジター3名を同伴してラウンドする場合、その日の消費金額は36,250円となり、このスタイルで年間14ラウンドすればミニマムユース達成と言う事になる。仲間を誘って月1ペースでゴルフを楽しむ事が出来る会員であれば、ほぼ目標金額を達成出来るのである。中には年1回のコンペ開催にて、ノルマを達成している会員もいる。

つまり会員自らが消費した金額と、同伴者の消費した金額を合算した総額が、会員自らの選択した目標金額を超えていれば良いと言う事になる。この様に考えられるならば、目標金額はそれ程大げさな話では無い事を、理解出来ると思われる。

<省エネ経営>

クラブ経営及び運営は役員及び理事の総勢約30名で決めているが、特に経営に関する問題或いは金銭や人事に関する件は、役員会で決めている。役員は会員の中から総会で選出されており、全員ボランティアであり誰一人報酬を得ていない。とは言え副支配人以下専業で働いている従業員には、

給料が支払われている。

クラブ経営にあたりコストを低く抑えておく事は大変重要であり、それを実現する為に様々な工夫がなされている。例えば光や風を巧みに取り入れ、利用者にとっては快適な空間でありながらも、費用は安価で済ませている。施設内はエアコンが少なく、あっても家庭用のもので済んでいる。また天窓も多く、太陽光がある時には室内照明を極力抑えられている。

クラブハウス内で最も経費がかかるのは光熱費であり、ここを極力抑え低コストで運営出来る様になっているのが、当該クラブの特徴だ。経営の巧拙は時として会員へ負担を強いる事にもつながるので、どの様なイレギュラーな事態が発生しようとも、それに耐え得る低コスト体質と言う観点はとても大切な要素だと言える。

<多彩なティーンズグラウンド>

ティーンズグラウンドは現在6ヶ所有り、それはブラック、ブルー、ホワイト、グリーン、レッド、チャイルドとなっている。

特徴的なのは女性用のレッドとジュニア用のチャイルドである。女性用に関しては、おざなりに造ったものでは無くしっかりとしており、チャイルドティーに関しては、6~7歳のジュニアが土曜日や日曜日に、夕方までラウンドを楽しんで利用している。

当該クラブには様々なコンペがあり、その代表格は四世代対抗コンペと言える。青年、成年、壮年、熟年が対抗戦を行っているのだが、この様な時に6ヶ所のティーンズグラウンドは大きな役割を果たしている。

<女性の来場者は約30%>

女性の来場者が際立っているのが当該ゴルフ場であり、年間の全来場者数の中に占める割合は約30%にも及ぶ。その約30%の中に占める当該女性会員の割合は約40%である。これは年間に於ける集計だが、こと平日に限定するならば、祝日を含む月曜日から金曜日の平均は、約44%を女性が占めている。

なに故に女性が多いのだろうか。その根本的要因を解明出来ている訳では無いものの、様々な点には気付かされる。例えばクラブハウスは木造であり、素材そのものの良さを出している事から、迫力が無いと言えばそれまでだが、威圧感が無いと言う表現が適切な程、清潔感と居心地易さをもし出している。

女性用のお風呂に付いては、男性用の7~8割ほどの大きさとなっている。これは単純に男性用と比較すると若干小さめだが、他クラブの浴室と比較した場合、大変大きいものになっている。この大きさはクラブハウス建設当初より、将来女性ゴルファーが増加するであろう事を、想定していた

為になし得たのである。

当該クラブでは特別なパーティ以外、通常ではドレスコードを設けていない。しかしながら来場者は皆オシャレだ。ファウンダーの坂氏は、〈特に女性がとてもカッコイイ〉と表現している。クラブから画一的な服装を強制される事が無いものの、同伴者や来場者に嫌悪感をもたせない、気遣いの出来た爽やかなスタイルの女性が多いのだ。

服装に関してはフェローシップ委員会が管理しているとの事だが、あまりにもクラブの雰囲気とミスマッチだと、思えるものに付いては注意している様だ。例えばスーツ姿で来場されても、夜の繁華街で似合う様なものでは、やはり困ってしまう。

＜乗用カートでセルフラウンド＞

ラウンドはセルフでのスループレーが原則でキャディはいない。自らの事は自ら行うのが基本だ。キャディバッグの積み下ろしも、老人と子供以外はプレーヤー自らが行っている。

ラウンドは5人乗りカートを4名にて使用しているが、現在試験的に二人乗り用カートでのフェアウエー乗り入れを認めている。隣地に住宅を所有している会員は、ほとんどがこの二人乗り用マイカートを所有している事から、マイカートで来場しラウンドしている。

Ⅲ、住居__コミュニティ



＜ゴルフ場と一体となったコミュニティ・住居＞

ファウンダーの坂氏はアメリカ在住時、偶然にもゴルフ場設計家のデズモンド ミュアヘッド氏と自宅が近く、車で数分の距離と言う関係から懇意にしていた。彼はゴルフ場と住居は一体で開発すべきと言うのが持論であり、実際坂氏が住んでいたオレンジカウンティでは、住宅と同時にゴルフ場が造られると言うケースが一般的だったとの事だ。

デズモンド ミュアヘッド氏は、これまで数多くのゴルフ場を日本で手がけて来る中、ゴルフ場のみの建設と言う点に違和感を覚え、坂氏へ度々疑問を投げかけていた。氏曰くゴルフ場は、〈生活の一部〉であるとの認識から、このような発言を坂氏へしていたと思われる。氏の疑問に対し坂氏による現在の回答は、「日本に於ける一体開発は、行政に問題が有り無理」と言うものだ。ミュアヘッ

ド・フィールドズは別々の開発として、着手出来た為に今日が有ると坂氏は振り返る。

ブリック&ウッドクラブの隣地に展開されている住居であるコミュニティは、ゴルフ場開場から10年ほど経過した2010年ころ建設に着手された。2012年より第一期工事地区に家が建ち始め、2018年現在約70棟が建っている。今年中には80棟位まで建つと予想しており、最終目標は130棟ほどを想定している。

土地は60%ほど売れているにも関わらず注文建築の為、請け負っている工務店のキャパが追いついていない。兎に角技術者不足が大きく影響しており、型にはまった作業では対応出来ていないのが現状だ。当初7区画で売り出されていたのだが、North Park 区画33棟とHill Top 区画8棟は完売となっている。残り5区画だが、Lake Side 区画も残りわずかとなって来た。

<ゴミアヘッド・フィールドズ コミュニティ 価格表>

Lake View				
棟	面積 (㎡)	面積 (坪)	坪単価	価格
1	408.66	123.62	140,000 円	17,306,752 円
2	431.46	130.52	〃	18,272,332 円
3	281.50	85.15	〃	11,921,525 円
4	275.57	83.36	〃	11,670,390 円
5	114.07	34.51	〃	4,830,865 円
6	242.08	73.23	〃	10,252,088 円
7	469.86	142.13	150,000 円	21,319,898 円
8	390.92	118.25	〃	17,737,996 円
9	381.62	115.44	〃	17,316,008 円
10	397.89	120.36	〃	18,054,259 円

上記表示価格などは2017年9月現在のもので、参考資料として一部を表記するも、価格や面積などは予告なく変更されるとしている。

<ゴルフは生活の一部>

ここには住んでも住まなくとも良いが、生活の一部を提供したいと言うのが坂氏の考えだ。一例だが勤務地が東京にある医師などは、木曜日定休の為に水曜日の夜に、東京八重洲から直通バスでこちらへ来る。そして木曜日にラウンドし、金曜日早朝にまた高速バスで東京へ戻ると言う生活を続けている。医師に限らず職種によっては週に3日前後、こちらで過ごす方が増えて来ている。

コミュニティの住民は殆どの方がマイカーを所有している関係から、キャディバッグを積んで

直接ティーンランドへ来られ、ラウンド後も又直接自宅へ帰れる。住民にとってゴルフは、生活の一部になっている。

夕方時クラブハウスの様子は一変する。当該ゴルフ場の食事は美味しいと言う評価も有り、コミュニティ住民は家族と共に、夕食を此処のレストランで摂る事が多い。

世界的なジュニア競技に出場している子供をかかえる4家族が現在家を建築中だ。子供が日常的にゴルフと接する為には、住居と一体である事が理想なのだとと言える。海外では当たり前のように語られている光景が、日本で見る事は殆ど無い中此処では実現出来ている。

坂氏は言う。

ジュニアに限らずコミュニティの住民には、例えば80歳過ぎの方にもゴルフから離れない様、離れない様、ゴルフが生活の一部として一生を終えて欲しいと。

IV、農場_オーガニック ファーム

ゴルフと農業は健康寿命を考える上で、切っても切り離せないと言われ坂氏は語る。これはミュアヘッド・フィールドズに於いて展開されている農業を通じ、坂氏が目の当りにした実体験から、得られた持論では無いかと思われる。

坂氏の分析と同様なレポートが、近年様々な研究者より発表されて来ており、その認識は定着しつつある。これは単なる一識者の提言では済まない程、重要なテーマになっているのが実情だ。

ゴルフをする事で身体能力の低下をカバーし、農業と言う作物の生育に関わる事で従事者の脳が活性化して行く、この様な連鎖反応が健康寿命に貢献するのだ。

超高齢化社会が進行している現代日本に於いて、如何に介護年齢を押し上げ、介護期間を短く出来るかは大命題だ。一人一人の人生に於いて介護期間を少なく出来るのであれば、膨大化する日本の医療費も削減出来るであろうし、一人の人生でこれ程の幸せは無いのではないだろうか。

ミュアヘッド・フィールドズに於ける農業は、コミュニティ建設と同時進行で進んで来た。現在では集荷した作物を、ブリック&ウッドクラブのレストランへ提供したりしている。坂氏の構想としては、これを拡大しコミュニティ住民への供給も含め、コミュニティ自体での自給自足体制を構築したいのではないかとと思われる。

ゴルフを楽しみながら食の原点である作物を栽培し健康寿命を延ばす、これ程素晴らしい事は無い。因みに当該農場で行われている田植えと稲刈りには、会員の子弟30人ほどが、毎年参加している。

V、坂征郎氏へのインタビュー



2018年3月中旬、ゴルフ場現地へ出向き坂氏を訪ねた。当日は天気が良く暖かく、レストランのテラス席にてお話を伺う事が出来た。氏の渋く張りのあるお声は、年齢を感じさせないどころか、事業意欲に満ちていた。

このミュアヘッド・フィールズはまだまだ建設途上で、達成度は六割から七割で、今後三割四割の課題が残されているとした坂氏だが、このインタビュー中にも氏の携帯へは、けたたましい呼び出し音が鳴り、打ち合わせと思しき会話をされていた。

精力的に仕事をこなす氏の姿は、単に新しいコミュニティづくり、地域創生などでは説明出来ない何かを感じた。それは坂氏が新しい価値観を日本文化に根付かせたい、と挑戦しているからでは無いだろうか。

坂氏の脳裏には、様々な構想が渦巻いている。その一つ一つが具現化するには、今少し時間の経過が必要な様だ。とは言え海外法人との業務提携を通じ、介護技術・資格を持った海外からの人材受け入れに付いては、具体的な話がテーブルにのりつつある様だ。

このスタッフ受け入れを通じ、住民への在宅ケアが可能になる、と氏は考えている。

ここから見えて来る近未来は、ミュアヘッド・フィールズで一生を終える住民が出て来る事だろう。これこそミュアヘッド・フィールズが、終の棲家となり得ると言う、坂氏最大の思いなのでは無いだろうか。

デズモンド ミュアヘッドから薫陶を受けた坂征郎氏の挑戦は続く。

2018年5月4日

文__大野良夫

(日本ゴルフジャーナリスト協会会員/タクト株式会社・代表者)

TEL 080-5031-5210